

おもかげ
昭和初期の面影を残す建築

ほっかいどうだいがく とまごまい けんきゅうりん しんりんきねんかん
② 北海道大学苫小牧研究林 森林記念館



大学研究林は、森林生態系の調査、研究および教育を行う施設です。北海道大学の研究林は、苫小牧研究林のほか幌延町や中川町など道内外計7か所にあり、その総面積は約70,000ヘクタールで大学研究林としては世界有数の規模を誇ります。

苫小牧研究林は、苫小牧市街地から北東に約5kmの場所に位置する総面積約2,700ヘクタールの森林で、明治37(1904)年、国有林から北海道大学の前身である札幌農学校に管轄を移し、国の登録有形文化財となっています。発足時から林内には、研究のための観測施設や実験室などが建てられ、その中の一つである森林記念館は、歴史的な価値が認められ、国登録の有形文化財となっています。

北海道大学苫小牧研究林 森林記念館

国登録有形文化財 平成12(2000)年4月28日登録

所在地：苫小牧市宇高丘

所有者：北海道大学

管理者：北海道大学苫小牧研究林

森林記念館は、動物や樹木の標本、研究の道具などを貯蔵・保管するための標本貯蔵室と、その後に増築された標本加工室で構成されています。標本貯蔵室は、昭和10(1935)年に建設された、木造平屋建て駒形屋根の牧畜舎風の建築物で、屋根につけられた3連の連続窓や横長窓には当時の時代的な特徴が表れています。標本加工室は、昭和38(1963)年に標本貯蔵室の東側に増築された教会風の建物です。

その後、昭和52(1977)年に標本貯蔵室の資料が新たに建てられた森林資料館に移管されたことで、標本貯蔵室は、その役割を一旦終えることとなります。しかし、昭和63(1988)年に林業関係の資料を展示できるように再整備され、現在では森林記念館として使われています。

平成12(2000)年には、昭和初期の面影を残す森林記念館標本貯蔵室部分119㎡が国登録有形文化財となりました。

※1駒形屋根(こまがたやね)
ギャンブレ屋根とも呼ばれ、屋根の正面の形状が将棋の駒のような形になっている屋根



写真の解説

① 北海道大学苫小牧研究林内にある森林記念館の外観 ② 紅葉する研究林内の広葉樹(写真提供：苫小牧写真連盟) ③ 将棋の駒のような形をした駒形屋根の様子 ④ 森林記念館に取り付けられている国登録有形文化財のプレート ⑤ 自然環境豊かな研究林